

らびプラス

老後の住まい 決めた?

上

N30297

老後の住まいは「どこに住みたいのか。今は元気でも、将来の健康への不安から、高齢者向けの住宅へ住み替えを検討する人は多い。ところが介護サービスの使い方などは様々なタイプがあり、選ぶのは簡単ではない。目的や予算にあった老後の住まいの選び方を2回にわたり考える。

「一人暮らしの母は元気だが、将来が心配。高齢者施設に入居してもらおうと考えている」。東京都に住む会社員Aさん(36)は、70代後半の母親のために施設選びを進めている。Aさんは一人っ子。母親の年金収入と合わせても予算は限られる。「設備が充実した高額施設は難しい。どうすればいいの？」

自立型か介護型か

高齢者施設への入居を考える際に、まず必要なのは本人の健康状態の把握だ。食事や入浴などの介助が必要かを見極める。元気なら自立型、介助が必要ならば介護型の住まいを軸に考えることになる。今は元気なAさんの母親の場合、抑えめの予算で選択肢に上がるのは自立型のケアハウスとサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)だ。ケアハウスは月々の費用は比較的低額で、食事などのサービスが受けられる老人ホーム。費用は地域や施設で異なるが、東京都内なら月額7万~15万円が目安。別に数百万円の入居金が必要などもある。

一方、サ高住は国が普及を後押ししている新たな高齢者向け住宅だ。生活相談の担当者や介護士が常駐しており、本人の安否などを親族が確認できる。基本は賃貸住宅なので、プライバシーの確保など生活

必要なサービス 見極めて

の自由度が高いのも特徴。家賃は5万~25万円程度。中には食事サービスがあり、訪問介護事業所を併設するなど、介護に対応した所もある。注意が必要なのは、サ高住で介護を受ける際の費用だ。高齢者向けのコンサルティングを手掛けるタムラプランニング&オペレーティングの田村明孝社長は、「要介護度が上がると利用限度額を超え、自己負担が膨らむ」と指摘する。介護保険サービスは費用の1割負担が原則だが、介護の必要度合いに決められた限度額を超えた部分は、全

予算に合わせ賢く選ぶ

額自己負担になるからだ。要介護度が3ならば月3万円、5の場合、10万円程度を自己負担するケースは珍しくないという。「私えない場合はサービスを抑えるか、転居することになる」と田村社長。重度の要介護になっても住み続けられるかどうかは、よく考える必要があるだろう。

仮にAさんの母親に介護の必要が生じてから、施設を選ぶ際も予算に応じて選択肢が分かれる。特別養護老人ホーム(特養)は、包括的な介護サービスが月額5万~15万円程度で受けられる人気の施設だ。だが、費用が割安なことから、入居希望者が絶えず、全国で40人以上の待機者がいる。加えて厚労省は、20

15年度から入居条件を要介護3以上に引き上げる方向だ。「今後、特養は最初の選択肢にするのは難しい」と田村社長。比較的low額のサービスとして選べるのは、介護付きのサ高住か、介護型ケアハウスということになる。

もちろん、予算に余裕があれば、施設の選択肢は広がる。費用が高めの介護型の有料老人ホームと住宅型老人ホームだ。どちらも月額費用は10万~30万円程度で、入居一時金が必要な施設が多い。入居金は数百万円から1億円を超える施設まで幅広い。

両施設とも介護サービスを提供するとは変わらないが、前者は施設スタッフが包括的な介護を担い、後者は外部業者から選ばれる契約するという違いがある。介護サービス費用も介護型なら定額で、住宅型はサ高住と同様に、限度を超えた分は自己負担になる。

認知症を考えたなら

介護型の施設を選ぶ際、多くの人が心配するのは認知症への対応だ。暴力など周囲に迷惑がかかる場合は、退去を認める施設もあるからだ。認知症に特化した施設としてはグループホームがある。家庭的な共同生活をおくりにながら、専門のスタッフからケアを受けられる施設で、費用も月12万~18万円程度と比較的抑えられている。ただし、グループホームでも介護の必要度合いが高まると、住み替えが必要になるケースはある。一部の有料老人ホームでも認知症に対応しているの

高額

名称	介護対応	特徴と月額費用の目安(東京都内)	約
住宅型有料老人ホーム	○	食事などの生活サービスがある。介護は外部サービスを利用。別途費用がかかる	10万~30万円
有料老人ホーム	自立型 × 介護型 ○	自立型は食事などの生活サービスがある。介護が必要になると原則退去。介護型は要介護者に対応し介護費用も基本的に定額。入居金が必要な施設が多い	10万~30万円
サービス付き高齢者向け住宅	△	安否確認や生活相談などのサービスがあるバリアフリーの賃貸住宅。費用やサービス内容は施設ごとに異なる	5万~25万円(家賃)
ケアハウス	自立型 × 介護型 ○	低額の老人ホーム。主に自立者向けだが、介護サービスも提供する施設もある	7万~15万円
特別養護老人ホーム(特養)	○	要介護者が対象の公共型老人ホーム。費用が安いが待機者が多く、入居は難しい	5万~15万円

(注)高齢者住宅財団や東京都の資料などをもとに作成



で、じっくり比べてみよう。

予算と本人の健康状態を基に選んでも、タイプごとに一長一短がある。全ての希望を満たすのは難しいのも確かだ。入居してみたら、思っていたサービスと違ったというケースも少なくない。

従って、サービス内容や予算については、希望の優先順位をつけることが大切だ。その際は「サ高住は自立向け、有料老人ホームは高額、などとイメージで決めつけず、幅広い施設を検討した方がよい」と田村社長は指摘する。

候補を絞ったら、見学や体験入居をするのも欠かせない。住まいの使い勝手は実際に利用しないとわからない。介護をするスタッフの働きぶりや雰囲気も確かめておくべきだろう。体験入居で満足できない施設を選ばない。あくまで慎重に、望む住まいの住み家を選び抜こう。

(田中裕介)

おさいふナビ